

令和八年度入学試験問題（私費外国人留学生特別選抜）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
- 六、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

(佐藤健二「演説」と「挨拶」の公共圏―声の原点から考える― 熊野純彦・佐藤健二編『人文知3 境界と交流』東京大学出版会、二〇一四年、二〇〇―二〇七ページ、抜粋・一部改変)

問 現在のSNSなどでの発信は、課題文にある「式辞」「挨拶」とどこが共通していて、どこが違うと考えるか。本文を踏まえて六〇〇字以内で答えなさい。

* SNSは、Social Networking Service (ソーシャルネットワーキングサービス)の略で、インターネットを介して交流する仕組みのこと。代表的なものにX (旧 Twitter)・Instagram・Facebook・LINEなどがある。

令和八年度入学試験問題（私費外国人特別選抜）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

出題の意図

琉球アジア文化学科は、アドミSSION・ポリシーとして、研究対象である琉球アジア言語文化圏（沖縄、日本、中国、台湾、朝鮮半島）の言語、文学、文化、歴史、民俗などに強い関心と学習意欲を有し、彼我の相違と類似性の面に目を向けつつ主体的・積極的研究のできる人を求めている。したがって、本学科の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探究心と、根拠ある主張を論理的に展開できる力が要求される。問題文は、近代日本に展開した演説、式辞、挨拶と社会性や公共性との関わりを論じ、さらに演説、式辞、挨拶が公共的になる一方で、形式化や儀式化も進み、その意味が空虚になっていったことも指摘した文章である。本出題の意図は、式辞と挨拶の持つ公共性の差異を、著者の意見を踏まえて正確に読み取ったうえで、現在、社会に影響を与えているSNSとの比較を通して、公共性の変化（再構築）や個人と社会との関わりについて論述させることによって、受験生の理解力や発展的な思考力、論理構成力、日本語での言語表現力などをみることにある。